

第2回 物部川大規模氾濫に関する減災対策協議会

議事概要

■日 時：平成28年8月30日（火）13：30～15：30

■場 所：高知城ホール

■出席者：高知市長（代理）、南国市長（代理）、香南市長、香美市長、

高知県危機管理部長、高知県土木部長（代理）

高知地方気象台長（代理）、

四国地方整備局 河川調査官、高知河川国道事務所長

■議 事：水害時の対応に係る啓発ビデオの紹介について

■議 事：水防災意識社会 再構築ビジョンに基づく取組について 等

高知市長（代理）：

- ・チェックシートなんかも一応、南海地震対策がメインになっておりますけれどもこの防災シート的なもので作成している。それを自主防災組織等とともに今後も活用できたらなど、また勉強もしていかなくてはというふうに思っている。

南国市長（代理）：

- ・近年、本市に影響を及ぼした災害というのは98豪雨これが一番大きなものであった。その災害からすでに18年が経過しており、それぞれの河川、2級河川も含めて整備はほぼ完了している。
- ・国交省が現在取り組んでいる物部川における想定しうる最大規模の豪雨に伴う浸水想定区域が公表されれば、市が現在作成している洪水ハザードマップ、これの作成見直しを行い市内全戸に配布し、啓発していきたい。
- ・ハザードマップ配布に合わせて洪水に対し物部川が決壊した場合の浸水区域、南国市はほとんど、北部は別ですけれども、半分から南はほとんど被るという状況になる。そういう場合の洪水時の避難行動、避難所の位置など、地域の危険箇所の把握、それに対する対応など周知・徹底していくかなければならないと考えている。

香南市長：

- ・ここ数年5、6年前から大災害のおそれがある時は事前に、各市町村、気象台長を始め「何かあったら連絡下さい。管轄外でも結構ですから。」というふうなトップ同士のやりとりが必ずございます。それが非常にいろんな面で役立つ。
- ・まず、トップ同士が事前にいろんな話、連絡取り合うということがあったと

思うので、今日の方針にもそんなことが載っていないようなことがあり、すぐできるような形をとったらと思います。できたらそんなこともこの資料の中にいれといでもらえたらいいんじゃないかと思っている。

- ・そこに住んでいる住民は津波も河川災害も同じ災害で一緒であり、河川災害だけでみるとどのような形が実際的なのかどうかも議論したほうがいいのではないか、津波の被害が想定される範囲も今皆さんご覧になっている地図の中では非常に大きなエリアを占めている。そのことも非常に協議していく必要があると思っている。
- ・我々にとって避難勧告を出すタイミングというのは非常に大事なことである。そのためのいろんな判断材料になりうるものとして、河川国道事務所からも気象台からも以前から比べたらいろんな資料等もいただいており我々首長としてはありがたい。
- ・一昨年の台風 12、11 号があったが、土砂災害警戒情報があり、イコール避難勧告と同じようななかたちであった。一度避難勧告をだすと土砂災害警戒情報がおりない限り、避難勧告をずっとだしているという状況になる。
- ・土砂災害警戒情報で当時は仕方ないからこのあたり全部一帯出した。具体的に地方にいけばいくほど誰々さんのところから誰々さんところまでというふうなことをこれから市町村としてはしていく必要が出てくる。そんな時のいろんな技術的なことで、支援というか市町村だけではなかなか難しいところがある。
- ・河川災害も含めてですけど、全域というよりもそのピンポイントというのをわかることによって、そこにいる方がより意識持つということになる。

香美市長：

- ・物部川の浸水想定の暫定版をいただいたが、思っていた以上に赤い色の部分があり、びっくりしている。
- ・防災行政無線の整備を今進めている。そして、この想定区域で浸水の場所の家には全てに戸別受信機を全戸配布しようと考えている。もちろん屋外スピーカーも設置するわけですが、避難勧告等の情報を住民の皆さんに的確にお伝えとしようというふうに考えている。
- ・浸水想定区域につきましては個別に会議を開いてこの状況についてはご理解頂こうと思っており、その際に、タイムラインの説明とか、避難訓練実施を促したり、ということをやっていこうと思っており、自らの命は自ら守るということの意識付けをしっかりとやっていきたいと思っている。住民の説明会の際には、河川国道事務所の皆さん方にも一つお力を貸し頂きたい。
- ・情報を市民の皆さんにできるだけ正確に伝えて、いろんな情報の得かたもしっかりと理解して頂きたいなというふうに思っており、逃げ遅れゼロということのために今後取り組みを進めていきたい。

高知県危機管理部長 :

- ・ 5 年間でやっていけばと目標を立てており、逃げ遅れゼロとか社会経済被害の最小化繋がっていくのだと思っている。
- ・ 勧告を出すタイミング非常に難しく、予め決めておくということも大事であるが、避難勧告や避難指示を出したとき一番の今の問題は避難をしないということ。避難率が非常に低い。一昨年、12、11 号台風の時に大豊町で避難指示を出し、避難率 100% であった。なぜかというと一戸一戸に回って避難を呼びかけた。研究によると避難勧告や避難指示っていうのは出す範囲を狭めれば狭めるほど非常に避難率が高くなる。
- ・ 5 年間の取り組みの中で、出すタイミングもさることながら、どういう風に伝えるかということも検証しながら是非やっていけば避難率向上につながると思う。県としてもそういった部分も沢山の先生との研究を進めていきたいと思っており、危機管理部としても目標達成のために努力していきたい。

高知県土木部長（代理）：

- ・ 2 級河川を担当しており、過去の水害対応ということで一定規模の整備はできているが、まだやらなければならない箇所もあり、これについては国・県連携しながら早期に実施するように努力していきたい。
- ・ 避難関係でいえば気象予報の精度向上ということで、これは気象台の方も極めて重要なポイントであろうかと思いますので、今年度しっかり予報精度向上をお願いできればというふうに思っている。
- ・ 住民に一番近いのは市町村だというふうに認識しており、やはり地域の弱み・強み、特に水害で弱い箇所、どこが弱いかっていうことをよく御存知であるというふうに思っている。なによりも地域地域でも人的ネットワークを持っているが、さりとてマンパワー不足であるというのは大きな課題ではないか。
- ・ 一点は技術的な支援。今後 5 年間のソフト対策かなり盛り込まれているが、ここも国の積極的な関与をお願いしたい。あわせて財源的な支援、これも非常に難しさもあるかと思うがその辺も今後ご検討いただければなと思っている。
- ・ 今後 PDCA でしっかりとここにフォローアップもされていくということでございますので、県もできる限り一緒になってやっていきたいと思っている。国には少し繰り返しのお願いになるのですけれども、その辺ひとつ市町村への支援ということでお願いしたい。

高知地方気象台長（代理）：

- ・ 防災機関や、住民の方々に災害発生の危険度や気象警報等の発表の可能性を的確に把握していただけるように情報の共有化に努めていきたい。

- ・雨量予測や避難対象地域の絞り込みについては、気象予測の精度を向上させていかないといけない。
- ・住民の方々（子供を含む）に対して洪水等に係る認識・知識、対応行動についての普及啓発は非常に重要だと考えている。

高知河川国道事務所所長：

- ・地点別氾濫シミュレーションの図はどのように使うかというと、そこに居住している方が、これを見て自分の所の浸水がどれくらいまで高さまで来るのか、破堤した場合にどれくらいの時間で来るのかと言ったものを把握して頂くものである。また、この図を 200mピッチで市町村と国が持って頂いて、いざ破堤の状態になった場合には、それぞれが同じ図を見て、「今ここで破堤しました。ここに何時間後に浸水が来ます。」といったことを電話でも図面上で状況を共有できるように考えている。
- ・トップ同士の連絡が重要とのご意見を頂き、私もそのように思いますし、何かありましたらホットラインを使用して頂きたい。こちらからも情報提供させて頂きたいと思っている。
- ・国ができる技術的支援は、十分やっていきたい。それから、T E C - F O R C E の話しもありました、資機材提供、排水ポンプ車の話しもありました。国土交通省は全国的組織ですのでできることを最大限協力していく。

事務局：

- ・「情報伝達（ホットライン）の実施」のところで、災害発生のおそれがある場合に、ホットラインを実施することを伝えている。先ほど意見頂いた時に、平常時からという話しもありました、ここに平常時と記入した方がよろしいでしょうか。調整させて頂いて取組方針の方に記載させて頂きます。
- ・避難勧告等のピンポイントの情報ということで、国土交通省から洪水予報等の情報を、有堤部、無堤部で深渕地点の水位計を基準に情報提供しているが、以前、香南市に説明を行った時に個別の地区毎の情報を頂きたいとの話しもあった。香南市では、上流の無堤地区と下流の有堤地区があり、そこでも危険水位を個別に設けている。そういう情報もホットラインとか、事務レベルから担当レベルへ事前に情報提供していきたいと思っている。

四国地方整備局 河川調査官：

- ・国土交通省では、昨年の関東豪雨受けて大規模な洪水対象とした取組として進めてきたが、これから先については水だけではなくて、広く防災意識社会ここに広げてしっかりやって行く。まずは大規模洪水を手掛けて、それをもつと他の津波、高潮、土砂災害そういった防災全般に広げて行こうというのをこれから次のステップとして打ち出して行こうと思っている。

質疑応答

香美市長：

- ・雨は等しく降るわけではありませんが、災害の際には国分川も浸水すると考えている。高知県の方も浸水の想定を2級河川もやられるのか、そのところはきちんとした答えが無かろうと思うが、その当たりどんなに考えているのか。

高知県土木部長（代理）：

- ・県の方では、鏡川、国分川を予定している。香美市長から言われた片地川等は、ポイント的にアドバイスができる、情報提供及び情報共有が可能だと思っている。当河川課にてフォローしていきたい。大きい国分川水系、鏡川水系については、少し遅れて協議会を検討する予定になってますので、ご協力をお願い致します。ポイント的にローカル的なものは、フォローしていく。